

# いこいの村

加瀬政一

題字 栗の木寮

2010年(平成22年)5月20日発行

## 第336号

発行責任者

編集

いこいの村聴覚言語障害者センター

所長 柴田 浩志

いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畠町久瀬谷2番地

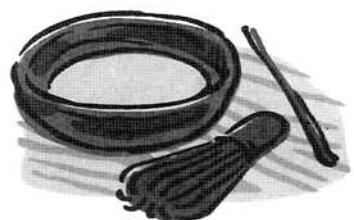
TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

## ユニット3棟合同

お茶会・お花見会



太田さんが抹茶を  
たててくださいました



「フュちゃん!」「しーちゃん、しーちゃんか!  
久しぶりやなあ」 中上林で同級生のお2人

ユニット棟の生活者(利用者)同士でも顔を合わせる機会が少なく、「久しぶり!」との声が飛び交います。

太田さんがたてられた抹茶を「なかなかの(良い)もんやな」とみなさん、喜んで飲まれます。笑顔のたくさんあるふれるにぎやかな会となりました。

(梅の木寮 ユニット型  
山本 茂希子)



# 年金生活でも グループホーム に入れるやうか?

ん達は遠方にお住まいで帰省が思うよつてできません。自宅訪問時には、お孫さんにもらつたテレビを誇らしげに見せてくださいます。一人にとつては、息子さんたちの帰省が楽しみです。

## 「ウメ子の作った味噌汁、 おいしいわ」



綾部市睦合町にお住まいの渡辺利雄さん(八十八才)はウメ子さん(九十一才)と一緒に暮りしておられます。結婚して六十一年、姉さん女房で近所でも評判の仲のよい夫婦です。四年前から、ウメ子さんの足腰が弱くなり、もの忘れが進み、通院する」とが多くなってきました。

ウメ子さんは若い頃、京都市内ではた織りをされていました。結婚後、三人の子育てと家事をこなし、家族が安心して過ごせるよう、忙しくても愚痴をこぼさずに頑張っていました。今は、息子さ

「飯を食べたことが思い出せないつめ子さん」、「おばあさん、10はん美味しいしかったなー」

利雄さんは食事が済んだことをそつと伝えられます。ウメ子さんは記憶が少しづつ薄

だける毎に、食器洗いの声かけや洗濯物たたみ等、ウメ子さんの見守りと支援をしています。

## 「年金生活では 利用できん やろなあ」



利雄さんとウメ子さんは一人の年金だけで生計を立ておりります。

「今でも息子達が助けてくれる」と、不安になつて混乱し、利雄さんに辛く当たられることがあります。

日頃、利雄さんはウメ子さんの認知症が今よりも進まないよう、役割を持ってもら

うことが大事と都合ができるだけ一人で調理するよう心がけておられます。

最近のこと、利雄さんが草刈りをして帰ってきた時、ウメ子さんが味噌汁を作つて待つておられました。利雄さんが草刈りをしていることがわ

かり、主人の帰りを待つ妻としての行動が味噌汁つくりになつたのでしよう。

梅の木寮短期入所中は利雄さんと離れて過ごす時間です。ウメ子さんが自宅でされてゐることを入所中もしていた

## 「みんなの茶碗も洗うで~」



適応がありません。

認知症対応型グループホームに入居がふさわしい方々の生活を、より豊かにしていくために、介護保険負担減額制度の適応が必須です。制度の改訂が実現できるよう行政へ

必要である声を届け、認知症の方たちが安心してこの地域で暮らしていくことを願います。

(高齢福祉部 介護支援係  
高橋 信代)

## 旧たから保育園 愛称募集!

「講堂ならぬでも三班（ゆつたり班）の体操やレクチャーができるね」  
「大きな和太鼓もいただいた。太鼓サークルでいろいろな親の皆さんに開放しレクリエーションや村祭りに発表したい！」  
「夏休みには聴覚障害児や親の皆さんに開放しレクリエーションや交流に使ってもらつて喜んでもらつたら良いな」

本紙2月号でお知らせしました綾部東部中上林の旧たから保育園の活用について栗の木寮を中心に関議を進めています。主な活用方法として、①日中の体力作りや創作生産活動の活用

②サークル活動などの余暇活動の活用

③地域や障害関係者への開放

と考へています。

譲渡を受けた建物や遊具、備品を見ると、保育園を永く運営してきた皆さまの児童福祉の向上に懸けてこられた情熱が、今もなお伝わってきます。その情熱を引き継ぎ、多くの方に喜んでいただけます。よう整備を進めていきます。

しかし、閉園から二年余り利用が途絶えたことから設備の安全面の確認が必要です。また、障害者用トイの整備など、栗の木寮の仲間をはじめ、利用者が安全かつ快適に利用するためには大きな改修も必要です。

先日、備品を搬入していた時、地域の方から園を通る水路が農業用水路になつていて教えていただきました。建物の利用だけでなく「地域の一員としての生活が始まるのだ」と考えるきっかけになりました。できることから利用を始め、地域の皆さまから助言や要望をお聞かせいただき

改修、改善を進めようと考えています。

まず、その第一弾として地域の皆さまに愛着をもつて利用していただきため愛称を募集します。考えられた愛称のほか、お名前、連絡先、所属を記入しFAX(0773-46-0610)でお申し込

み下さい。旧たから保育園を多くの皆さんに末永く活用していただけるよう進めてまいります。

(栗の木寮 吉田正和)



いこいの村  
聴覚言語障害センター  
所長 柴田 浩志

体を動かした後は  
ゆつたりティータイム（三班）

もうお一人は、いこいの村  
栗の木寮のご利用者、辻湛子  
(きよこ)さんです。辻さんは、一九九一年に栗の木寮に入所され、利用者の自治会である「あゆみ会」の役員を長く務

つ、難聴者福祉のさらなる前進を誓いました。閉会にあたつて三人のお子様から「自分たちが知らなかつた父の側面を知つたと共に、こんなにも多くの方々と共に歩んだ父を誇りに思う」との挨拶がありました。

もうお一人は、いこいの村

栗の木寮の利用者、辻湛子

(きよこ)さんです。辻さんは、

一九九一年に栗の木寮に入所され、利用者の自治会である「あゆみ会」の役員を長く務

められました。お亡くなりになる前に開かれた、栗の木寮暮らしを考える集会で報告をしている最中に倒れられ、急性大動脈かい離による緊急手術のかいなく、六十九歳の生涯を閉じられました。

辻さんの死があまりにも突然であったため、「ご遺族の願いにより、五月一日いこいの村でお別れの会を行わせていただきました。会場の集会室には、自治会活動で活躍された辻さんの写真が飾られ、多くの仲間と職員がお別れをさ

せていただきました。演元さんと辻さんは、多くの仲間とともに、安心して暮らせれるいこいの村作りに献身されました。これからも私たちはお二人の「遺志をついで、障害のある方、高齢者の方、そして全ての人が大切にされる施設や社会を実現するため

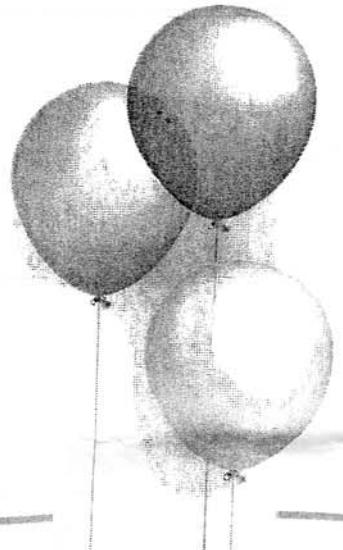
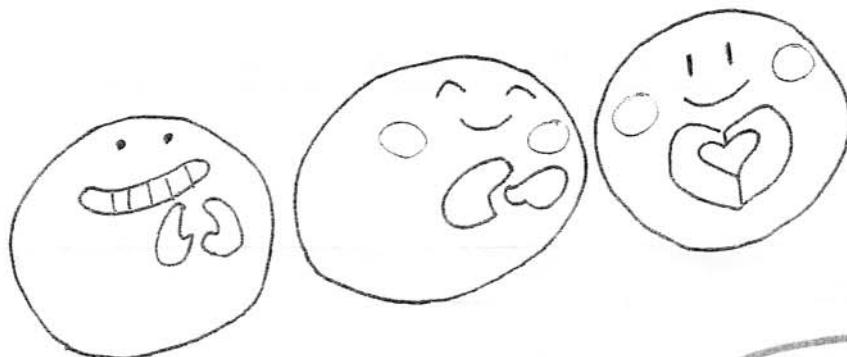
努力したいと思います。



辻さんのお別れ会の様子



今年のキャラクターは未定のため昨年のを拝借しました



# いこいの村まつり

日時：2010年10月23日（土）開催決定！！

場所：いこいの村

詳細は未定

ただ今  
“まつりのテーマ・  
キャラクター”  
募集中！

☆締め切り 6月15日

(お問い合わせ)  
いこいの村聴覚言語障害センター内  
まつり事務局 笹田・富田  
TEL. 0773-46-0101  
FAX. 0773-46-0610



## いこいの村まつり2010 アンケート

今年のいこいの村まつりは2010年（平成22年）10月23日（土）に開催されます。

楽しい祭りにしていくために、是非皆さんのご意見をお寄せください。



- ① いこいの村まつりのテーマを自由にお書きください。（過去の例 「逢合・愛」「友you遊」「出逢い」）

- ② 村まつりのマスコットキャラクターを募集しています。キャラクターの名前も付けてください。

- ③ どんな催しがあれば祭りに行ってみたいと思いますか？（例 花がたくさん咲いている パントマイムなど）

- ④ 村まつりでご自分がしてみたいことはあればご記入ください。

（例 特技披露「生け花や絵画の展示、手話劇など」）

- ⑤ 有名人に来てもらえるとしたらどんな方に来てもらいたいですか？

また知り合いに有名人がいて「紹介できるよ」という方がおられたらご記入ください。

（お名前\_\_\_\_\_）

（ご連絡先\_\_\_\_\_）

アンケート締め切りは6月15日（火）です。お早めにいこいの村祭り実行委員（笹田・引原・富田 中川 西垣・長岡・村上・柴田・滝野）までお寄せ下さい。FAXでも受け付けています。

FAX 0773-46-0610